

梶山内閣府特命担当大臣（地方創生、規制改革） 記者会見要旨

日時：平成29年12月15日（金） 18:35 ～ 18:40

場所：首相官邸ロビー

（冒頭発言）

第32回国家戦略特別区域諮問会議が先程終了しました。

最初に、先日12月13日の合同区域会議で審議しました、全国初となる神奈川県地域限定保育士試験への民間参入や養父市の観光客向け自家用有償旅客等運送事業など6区域13事業の区域計画を認定するとともに、法令の定めるところにより、農業支援外国人受入事業に関する指針を決定いたしました。

次に、先般、民間議員に御提案いただいた国家戦略特区の透明性向上と機能強化について、その後の民間議員の検討結果を踏まえ決定した対応方針、具体的には、「諮問会議を更に実質的な交渉の場として活用すること」、「省庁間のやり取りについて合意議事録を作成すること」、「ワーキンググループの議事運営ルールの明文化」について、私から紹介をさせていただきました。

最後に、特区版サンドボックスの制度化について、お話いたしました。はじめに、私から、サンドボックス制度に関する検討状況を御説明いたしました。次に、全国初となる公道での完全自動走行実験など、これまで、本分野をリードしてこられた門脇仙北市長から、これまでの取り組みや今後の展望、規制のサンドボックス制度への期待について御発言をいただきました。

自由討議では、民間議員からも、サンドボックス制度の制度設計に関する考え方や、今後の岩盤規制改革項目が示され、闊達な意見交換が行われました。

本日、様々な御意見を頂戴した規制のサンドボックス制度については、法制化に向けて、関係省庁との調整や、民間議員との検討を深めて、その結論を早急に得たいと考えております。

最後に、総理より御発言がございました内容については、皆様お聞き及びのとおりで。

（質疑応答）

問：大臣、民間議員からあった透明性向上の件なのですが、具体的にはどういったところが、より透明性につながったとお考えでしょうか。

答：これまでも透明性を旨として運営してきましたが、明文化されていなかった。しっかりと明文化しましょうということであります。

例えば、陪席者に関しては、発言を一切認めないということ、議事要旨については必ず作って公表するということ。

そういったことが、明文化されたということであります。

問： 透明性というより、改めて確認したということになるのでしょうか。

答： これらをしっかり実行していくということです。

問： それをやっていくと、より透明性につながっていくというようなお考えになるのでしょうか。

答： そういうことと思っています。

問： 個別議事録についての質問なのですが、省庁間で合意した文書のみを議事録にするということでしょうか。

答： いえ、議事録と議事要旨は作るということです。合意文書というのは、合意に至った経緯、その交渉の過程も含めて、しっかりそれぞれの言い分を確認しながら結論を文書にするということです。

(以 上)